

Q-0501 コンクリート舗装は滑りやすいのではないですか？

舗装路面の滑りやすさは、舗装のすべり抵抗値で評価される。舗装のすべり抵抗値を測定する方法には、すべり抵抗測定車によるすべり摩擦係数測定、DF テスタ (Dynamic Friction Tester) による動的摩擦係数測定および振り子式スキッド・レジスタンステスタによる測定 (BPN: British Pendulum Number) 等がある。

コンクリート舗装路面のすべり抵抗値は、既存の調査^{*1)} において次のような結果が得られており、コンクリート舗装が特に滑りやすいとは言えない。

- (1) BPN で求めた供用後 18 年経過した転圧コンクリート舗装 (RCCP) のすべり抵抗値は 81 で、旧日本道路公団の基準値^{*2)} の「60」以上であった。
- (2) DF テスタで求めた供用後 18 年経過した RCCP の動的摩擦係数 (μ) は、60km/h で 0.65、80km/h で 0.62 であった。また、供用後 9 年経過した普通コンクリート舗装 (OWP: 車道路肩側の車輪走行位置) の動的摩擦係数 (μ) は、40km/h で 0.57、60km/h で 0.52 であり、いずれも旧日本道路公団の基準値^{*2)} である「0.35」以上を満足していた。

また、コンクリート舗装は、路面にグレーピングや真空工法による滑り止めを設置できるので、急勾配坂道等の滑りやすい箇所の舗装としても多く適用されている。

注)

*1) 第 28 回日本道路会議発表論文「国道 4 号平泉バイパスにおけるコンクリート舗装の供用性調査」(2009 年 10 月)他

*2) 旧日本道路公団舗装施工管理要領 (2000 年 8 月) の出来形基準